第５回日本地域医療学会　学術集会
学会長　大谷 まり　〈ご挨拶〉

AIと共に歩む今、「人を診る」原点へ！
仁の心で紡ぐ地域医療を共に創り出そう！！
このたび、第5回日本地域医療学会学術集会を、広島県呉市にて開催できますことを、大変光栄に存じます。日頃より地域医療の推進にご尽力くださっている皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。
本学術集会のメインテーマは、「『いのち』と向き合う医療の原点へ ～AI時代の地域の『ちから』～」といたしました。
人口減少と少子高齢化が加速する中、AIをはじめとするテクノロジーはこれからの医療に不可欠であり、私たちが積極的に活用していくべき重要なツールです。しかし、どんなにAIが発達し、医療技術が進歩しても、決して忘れてはならないのが「医の心」であり、古くから語り継がれてきた「仁心仁術」の精神です。
医療の原点とは、病気や疾患だけを診るのではなく、「人を診る」ことに他なりません。テクノロジーをうまく活用しながらも、目の前の一人の患者さんに、人にしかできない「仁の心」をもって向き合うこと。その方の暮らしや生き方にまで思いを馳せる全人的な医療を実践することこそが、今まさに求められています。そして、急性期、回復期、慢性期、在宅というそれぞれの場が途切れることなく、AIと人が織りなす温かい、ひとつの連続した医療として結びついていくことが、これからの地域医療を支える鍵となります。
本学術集会では、こうした思いをもとに、人の「生きる物語」に寄り添うナラティブや、急性期から在宅をつなぐシームレスな医療連携、身体的拘束の廃止、認知症・緩和ケア、排泄・排尿への支援といった日々の実践を取り上げます。さらに、「人そのものを診る」漢方の叡智や、AI時代における医療と教育の未来まで、多様なプログラムをご用意いたしました。
今回は、医療・介護・福祉・行政などの専門職に加え、地域の施設で暮らしを支える方々や地域で暮らす方々も共に参加し、高校生や大学生、研修医、専攻医といった若い世代から、現場を牽引してきたベテランの医師まで、世代や立場の垣根を越えて学び合える場となるよう企画しております。地域医療に関わるすべての皆さまが実践や知恵を持ち寄り、互いの「ちから」をつなぐことで、これからの地域医療のあり方をともに描き出していきましょう。
結びに、本学術集会の開催にあたり、温かいご支援とお力添えを賜りましたすべての皆さまに深く感謝申し上げます。この2日間の学びと語り合いが、それぞれの地域で「いのち」を支える皆さまにとって、未来を拓く「新たなちから」となりますよう心より祈念しております。
多くの皆さまの広島・呉へのご参加を、心よりお待ち申し上げます。

「いのち」と向き合う医療の原点へ
～AI時代の地域の「ちから」～
会期：2026年10月31日（土）・11月1日（日）

一般社団法人 日本地域医療学会
理事長　小野　剛　〈ご挨拶〉

平素より日本地域医療学会の運営につきましては、深いご理解と格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
おかげさまで、本会は令和3年9月に設立してから、5年を迎えました。
会員数も毎年徐々にではありますが増えてきており、専門医制度の各事業もほぼ計画通り進んでおります。
はじめに、今年は、全国的に記録的な猛暑、地震や気候変動による豪雨災害などもありました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
さて、「第5回学術集会」を令和8年10月31日（土）及び 11月1日（日）の 2 日間、「島の病院おおたに理事長 大谷まり学会長」のもと、広島県呉市「クレイトンベイホテル」を会場に開催いたします。本学術集会は、メインテーマを『「いのち」と向き合う医療の原点へ～AI時代の地域の「ちから」～』と掲げ、広島から全国へ取り組みを発信します。高齢化が進む日本では複数疾患を併存し、医療ニーズだけではなく介護・福祉ニーズも併せ持つ患者が増え、地域全体で治し・支え・寄り添う医療への転換が進んでいます。このような医療を実現するための担い手として、地域で幅広い疾患と多様な課題を抱える患者を継続的・包括的に診療できる総合診療医が求められています。地域では病気を診るだけでなく患者さんの人生に寄り添い、地域包括ケアを実践できる医師が必要です。それこそが、人と地域をまるごと診ることができる「地域総合診療専門医」なのです。
今回の学術集会では、地域総合診療専門医のありたい姿を探るとともに、これからの展望について、多才なゲストをお招きし、基調講演、多岐にわたるテーマと向き合うシンポジウム、地域医療を支える関係団体・関係学会推薦講師によるシンポジウム、ブラッシュアップセッション、学会長講演、日本専門医機構企画セッション、若手人材育成プログラム(高校生、医学生、研修医セッション)、多職種による一般演題(口演発表・ポスター展示発表) 等、楽しみなプログラムを予定しております。
更に、第5回でも、多くの現役医学生、研修医の参加を目指して、医学生による実行委員会を立ち上げ、関心のもてるプログラム企画も出来上がりました。
全国各地から地域医療に日夜取り組んでおられる多くの皆様方、そして地域医療に関心の高い学生の皆様方にご参加をいただきました。あわせて今回もオンライン併用での開催とし、現地参加が叶わなかった皆様のご参加もいただいております。本当にありがとうございます。
最後になりますが、今日まで準備にあたられた大谷まり学会長、伊藤公訓副学会長、繁田正信副学会長、アドバイザーを務めていただいた田中志子本会理事、島の病院おおたにの職員の皆様、そして、多くのご協賛をいただいた皆様に、心より敬意と感謝を申し上げ、実り多い学術集会となりますことを祈念してご挨拶とさせていただきます。

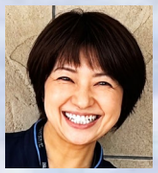
一般社団法人日本地域医療学会
Japanese Association of Community Healthcare
JACH

❖ 出演者のご紹介 ❖

※頭に❖が付いている方は「座長」です。　※会場は3Fです。 ※敬称略

1日目・第1会場

基調講演


❖大谷 まり

山中 克郎

シンポジウム１

❖富家 隆樹

❖田中 志子

藤森 勝也

田島 幸治

中村 伸一

佐藤 伸彦

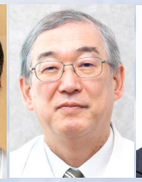
ランチョンセミナー【帝人ヘルスケア】

❖小林 達也

大宇根 晃雅

シンポジウム２

❖繁田 正信


❖伊藤 公訓

四方 哲

野瀬 範久

志田 知之

西澤 欣子

北原 加奈子

1日目・第2会場

ランチョンセミナー【医療法人社団八千代会 メリィホスピタル】

❖徳毛 宏則

姜　慧

森田 敦子

延原 浩

シンポジウム３

❖小林 達也

❖大原 昌樹

紅谷 浩之

髙橋 昭彦

永井 康徳

秋本 悦志

越部 恵美

地域医療を再考する～6団体 3学会の取り組み～

❖矢野 諭

❖北村 立

宮地 正彦

大谷 順

織田 徹也

杉谷 想一

松下 明

徳増 一樹

1日目(花の間)・口演発表

❖野村 幸博

❖海保 隆

❖松本 昌美

❖中村 昌樹

❖野村 英樹

❖阿波谷 敏英

1日目(琥珀の間)・ポスター発表

❖加藤 章信

❖廣瀬 英生

❖中尾 一久

❖女屋 光基

❖中瀬 真治

1日目(2F：トパーズ)

・学生ポスター
・若人会シンポジウム
※会場は「２F」です。

❖江角 悠太

舛田 裕道

松原 直矢

松田 眞依

2日目・第1会場

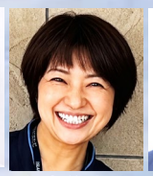
学会長講演

❖橋本 康子

大谷 まり

シンポジウム４

❖田中 志子


❖大谷 まり

富家 隆樹

川﨑 洋介

西尾 俊治

華岡 晃生

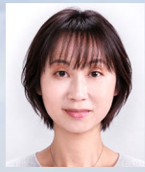
藤木 啓

ランチョンセミナー【大塚製薬】

❖石井 伸弥

中村 祐

シンポジウム５


❖田中 志子

❖佐藤 賢治

長英 一郎

鈴木 紳祐

織田 良正

石川 賀代

2日目・第2会場

日本専門医機構企画

❖山田 悟史

❖大原 昌樹

ブラッシュアップセッション

❖白石 吉彦

❖小川 恵子

河原 章浩

❖村岡ケンイチ

ランチョンセミナー【ツムラ】

❖大谷 まり

小川 恵子

研修医・医学生

❖白石 吉彦

❖江角 悠太

金子 惇

2日目(花の間)

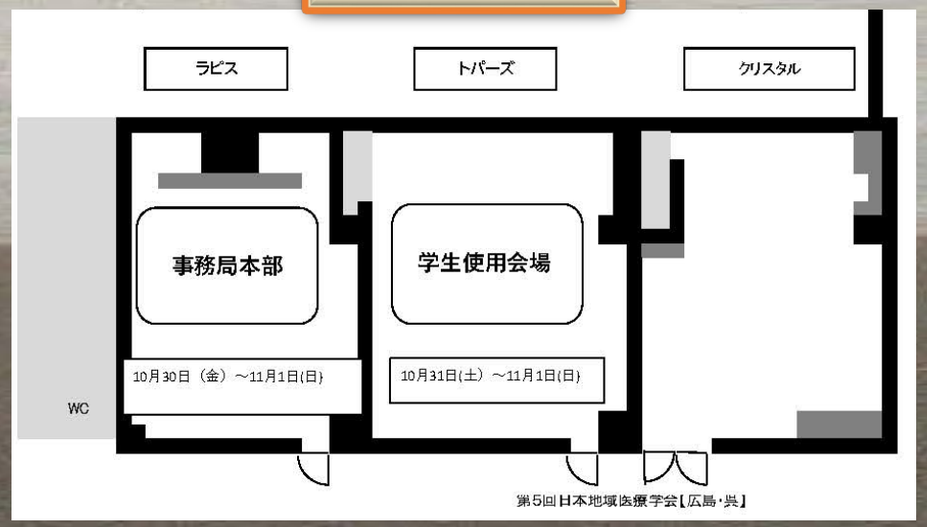
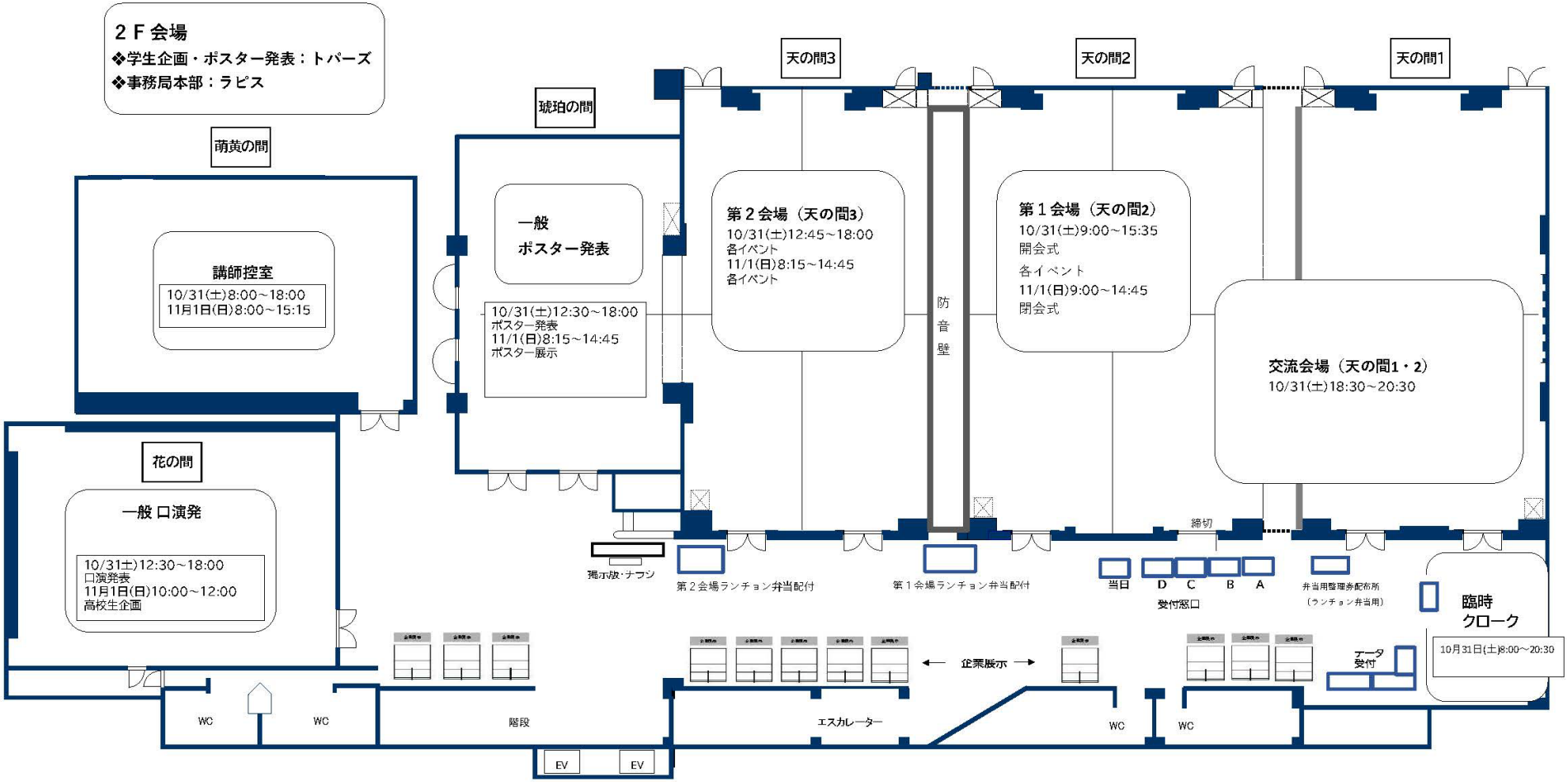
・高校生企画

※会場は「2F」です。

❖土井 毅

❖江角 悠太

❖2階会場見取図❖



クレイトンベイホテル3F会場